

北海道横断自動車道 第1狩勝トンネル本格着工

5月26日、北海道横断自動車道第1狩勝トンネル工事の安全祈願祭が行われ、工事関係者などが工事の無事を祈りました。

発注者である日本道路公団帯広工事務所の岩崎所長は、「3本のトンネルが開通して十勝から石狩に向けて、新しい風が吹くことを願います。」と挨拶しました。道横断道は、十勝清水工



(インターチェンジ)から夕張ICまでの81キロメートルが未開通で、インターチェンジはトマム、占冠、穂別の3箇所には設けられる予定です。

本町に関わる工事は、落合の串内牧場を東西に横断する約5・9キロメートルで、第1狩勝(全長2,351メートル)、第2狩勝(全長2,576メートル)の両トンネルと、2つの橋が建設されます。

国道274号で2時間

道横断自動車道 第1狩勝トンネル工事周辺図



を要していた十勝清水 夕張間は、横断道が開通すると約1時間10分に短縮される日勝峠を越えることなく、道央と道東を結ぶ安全なルートとなり、経済的にも大きな効果が期待されています。

全面開通の時期は未定ですが、4月中旬に着工した第1狩勝トンネル工事には、「鹿島・白石・地崎共同企業体」がJR落合駅前に工事事務所と作業員宿舎を構え、現在は約50名が常駐しており、平成18年貫通予定に向けて24時間体制で工事が進められています。

旭川しんきん産業振興賞を受賞

「大根収穫機」で南富自動車サービスエリア

しんきん産業振興奨励賞



財団理事長より賞状を授与される長田社長(左)

作業員が選別して後部のコンテナに積み込む仕組み。1時間当たり約20アールの抜き取り作業が可能で、人力の3・5倍の能力があります。

開発を担当した長田秀治社長は、「葉を残す長さの調整が難しかったが、耐久性、信頼性、低コストともに良い物ができた。」と振り返り、「毎日畑に出掛け、農業者の要望を直接聞いて開発に生かせる地の利が何よりの強み。これからも生産者の要望に応えていきたい。」と語っていました。

この賞は、地域産業への貢献度が高い企業を対象に財団が表彰するもので、同社の「自走式大根収穫機の高効率な研究開発」が認められました。



長田社長(左)と設計担当の鎌田さん(右) 後ろの機械が「大根収穫機」